と「え、分子の爆弾て何ですか」「君たち学校で分子記号を習っているでしょう」「あ、$H_2O$の分子ですか」「そうだ」富士山も吹っ飛ばすと言われているあの爆弾だよ」これは大事。

鉄橋を渡って東に進めば、白島町は全域が火炎に包まれている。鉄路の両側は今盛んに炎上している。可部方面に迂回して進むか、火災の中を強行突破するか。道案内になった私の心は迷う。

迂回の道程が余りにも大きいので強行突破に踏み切り三篠鉄橋を渡る。鉄橋の枕木は所々燃えて無い所がある。用心して進み橋の中央に到る。

ここは風通しが良いためか四方が良く見える。火災の現在の北限は大芝当たり。東・西・南は今盛んに炎上している。寺町・佐官町・相生橋周辺の火災は物凄い。「ああ、広島も呉と同じようになった」呉の焼け跡は見ていた。

更に東に進み鐃津鉄橋に向かう。鐃津鉄橋と三篠鉄橋の中心位置に進んでいる時は両側の火煙物凄く猛烈な熱気と猛烈な煙で前進困難となる。進むべきか、引き返すべきか。我が心が迷う。目を開ければ痛く、息をすれば体が熱くなる。先程の大雨は三滝橋までで、服はずぶ濡れで雨水は素肌を流れていたが、この熱気で乾燥、カラカラとなる。このままでは服に火が着くどちらかに決めて急げ。その時一陣の風、南を見れば福屋と中国新聞社（現在は姿を変えている）の四階から六階の窓から盛んに火が吹いている。社屋の最上部の細い塔の部分は燃えていない。

見た角度は福屋の西側の窓から火を上げているのが少し見える位置である。

鐃津鉄橋に急げ。鐃津鉄橋に急げ。安全な鐃津神社境内まで後五、六百メートル。急げ、急げ。やっと鐃津鉄橋西側に着く。ああ「助かった」と前方を見れば、下り列車が蒸気機関車を先頭にして鐃津神社側に約四十五度の傾きで倒れ盛んに蒸気を吹上ており、上りの鉄路を完全に塞いでいる。私と一年生の山口君で、空襲で火災に包まれた場合の退路は広島市全域の道路・橋（橋梁）川筋・海と完全に調査していたが、その道筋に障害物があることを計算していなかった。今日は避難の道案内である。熱気を避けて鉄橋寄りに集まる。

神田橋か工兵橋に進むか、常盤橋に進むか、己斐に帰るか。鉄路の両